

普及活動情勢報告（平成26年12月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

J A土佐くろしおニラ部会出荷始め総会が開催されました



J A土佐くろしおニラ部会では、11月28日に出荷始め総会を開催し、23名の生産者が参加しました。

低温伸長性品種「ハイパーグリーンベルト」と立性品種の栽植密度の実証計画について説明を行ない、参加者から「立性品種では株間に隙間があるので、もっと密植栽培ができるのではないか」という意見があり、栽植密度の検討への期待が感じられました。

ニラの多収安定生産に向け栽培実証に取り組み、結果を部会で検討していきます。

農地中間管理機構とJ A津野山管内の関係機関が情報交換会を開催しました



10月に実施したJ A土佐くろしお管内（須崎市）との情報交換会に続き、J A津野山管内の関係機関と農地中間管理機構との情報交換会を12月2日に開催し、関係者11名が参加しました。

J A津野山管内は、山間地の気候を活かした夏秋野菜や茶が栽培されていますが、高齢化が進み、後継者不足の問題が深刻なため、農地中間管理事業の活用を検討しました。耕地が小面積で散在している、知らない人に貸しにくい等の課題がありますが、集落営農組織との連携など、今後も可能性を検討していきます。

集出荷場をより良くするために！～快適な環境を目指して～



J A津野山のミョウガ部会、シシトウ部会、ナス部会は生産者GAPに取り組んでいます。しかし、津野山地域の唯一の集出荷場では、GAPへの取り組みが進んでいませんでした。そこで、本格的に取り組む前に、集出荷場が現在どのような状況にあるかを知るため、12月2日にJ Aと場内チェックを行いました。パレットの上に、出荷用の段ボール箱を置き、清潔感を保つ優良事例もありましたが、雑然と物が置かれている場所があったり、開けっ放しの出入口から入ってくる虫等への対策の困難さが確認されました。

今後、本格的に集出荷場のGAPを実施するにあたり、生産者も交えた点検活動にして、集出荷場がより良い環境になるために支援していきます。

J A土佐くろしおイチゴ研究会総会が開催されました



J A土佐くろしおイチゴ研究会では、12月3日に総会を開催し、13名の生産者が参加しました。

農業技術センターと連携して試験を行なった、ヒラズハナアザミウマの新しい天敵のアカメガシワクダアザミウマの試験結果を報告しました。また、天敵製剤として近々発売が見込まれるため、メーカーに天敵の特性について説明してもらいました。

参加者は、新しい天敵の効果、発売時期、コスト等に興味があり、多くの質問がでました。

今後も、地域での問題点や課題に対して、農業技術センターと連携し、栽培技術や病虫害防除の情報提供を行っていきます。

平成27年産加工用ワサビの栽培スタート（第1回現地講習会の開催）



J A津野山管内の平成27年産加工用ワサビの栽培が、前年を大幅に上回る規模でスタートしました。

取引先と連携し、12月12日の寒さの厳しい中、現地講習会を開催しました。この講習会は、栽培農家（9戸）を3グループに分け、それぞれのグループ代表農家のハウスで現地講習を行い、活着状況の確認や年内の株養成、厳寒期の管理などについて熱心に勉強しました（参加農家計8戸）。今後、現地講習会や目慣らし会を開催するなど、J A津野山や県園芸連などと連携し、冬場の補完品目として有望な加工用わさびの普及に取り組んでいきます。

JA 土佐くろしおミョウガ部会現地検討会が開催されました



12月11日～18日にかけて、J A土佐くろしおミョウガ部会の現地検討会が管内4箇所で開催され、延べ83名の生産者が参加しました。

省エネに向けた取り組みとして、保温対策を十分行ったうえでのヒートポンプ導入の重要性や、ハウス内環境を生育ステージに適した管理にする等について情報提供を行いました。

実証圃などで測定してきた環境のデータを基に、実際の循環扇設置の効果や温度管理の注意点を報告することで、理解しやすい内容になるよう心がけました。今後も、測定しているデータを活用して、増収に向けたハウス内環境制御について情報提供していきます。

花き（ダリア）巡回指導を行いました



12月17日、農業技術センター研究員と管内ダリア生産者3名の巡回指導を行いました。現地では、問題となっているアザミウマ類の防除、温度管理、電照方法や摘葉などの技術について、研究員を交えて情報交換をしました。また、I P M技術を導入している圃場では、天敵の春放飼に向けたスケジュールを確認しました。

ダリアは、県内でも有望品目の一つに位置付けられていますが、栽培技術が確立されていないため、今後も試験研究機関と連携を図り、収量・品質向上に向けて取り組んでいきます。

J A土佐くろしおピーマン現地検討会が開催されました



12月17日に9名のピーマン農家と共に現地検討会を開催しました。環境制御の一つとして、炭酸ガス施用を実証している圃場で現状のハウス内環境についてデータを示しながら、現在の生育状況について参加者と共に検討しました。圃場内での天気別炭酸濃度の推移や基本的な土づくり、水管理があって効果があらわれることを再認識してもらいました。今後、厳寒期の着果状況などについて情報提供できるように調査を進めます。

J A土佐くろしおニラ部会現地検討会が開催されました



J A土佐くろしおニラ部会では、12月18日に須崎市と中土佐町の2ヶ所で現地検討会を開催し、須崎市では9名、中土佐町では6名の生産者が参加しました。

厳寒期の栽培管理の他、品種比較や栽植密度に関する栽培実証試験の中間結果を報告しました。

参加者からは追肥の施用について質問があり、現地圃場栽培農家の事例を交えて説明し、生育による施肥間隔や施肥量が大切であると認識されました。

現地検討会の中では、実証農家との意見を交えた栽培技術の指導を行い、生産者の技術の向上に努めます。

施設栽培におけるヒートポンプ研修会を開催しました



J A土佐くろしお管内において12月19日に「ヒートポンプ研修会」を開催し、生産者66名が参加しました。管内にはヒートポンプが多く導入されており、燃油経費節減のために有効なヒートポンプの活用方法について生産者の関心が高くなっています。今回は、ヒートポンプ導入による経費節減の事例、機種の特性と温度設定時の注意点について説明を行い、熱心な意見交換がされました。

今後もJ A等の関係機関と協力して、加温経費の節減対策に取り組めます。